



「赤いろうそくと人魚」



どんなおはなし？



“日本にも昔、人魚姫がいた？”

「赤いろうそくと人魚」

作：小川 未明



北の海にすむ人魚(にんぎょ)のお母さんは、わが子だけはやさしい人間にそだててほしいとねがい、女の赤ちゃんをじんじやにすてます。その赤ちゃんをひろった、ろうそく屋(や)のおじいさんとおばあさんは、神さまからのさずかりものだと大切にそだてます。

そして、人魚の子はうつくしい娘(むすめ)にそだちます。人魚の娘が赤い絵の具で絵をかいたろうそくは、それを山のお宮(みや)にそなえると、決(けつ)してじこにあわないと、ひょうばんになります。

しかし、おじいさんとおばあさんは、よこしまな“やし”というあやしい男にこそそのかさされ、人魚の娘をうってしまいます。すると、人魚のお母さんが、娘がさいごにのこした3本の赤いろうそくを買いに来て…。



出演者

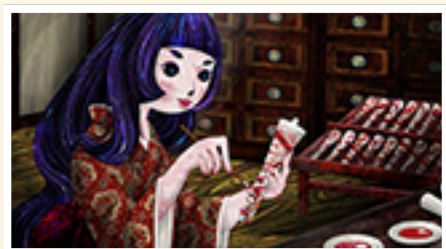


ささい えいすけ
篠井 英介さん

朝の連続ドラマ『まれ』にも出演(しゅつえん)する、俳優(はいゆう)の篠井英介さんが、大正時代(たいしょうじだい)からやってきた、ふしぎな語り部(かたりべ)になって、『赤いろうそくと人魚』を語り聞かせてくれます。



番組イラスト／「読んでみよう！」イラスト制作



イラストレーター
松村 麻郁(まつむら まい)

